

見学や体験、撮影もOK 昭和のおうちの楽しみ方

《昭和のおうち》

六ツ門図書館展示コーナーの一角には、昭和30年代頃の家を再現した「昭和のおうち」があります。ここでは、テレビや黒電話、タンス、ミシン、柱時計など、実際に家庭で使用していた道具を展示しています。当時を知る来場者は、見学しながら思い出に浸っているようです。

休日には、若い親子連れの来場者が昭和のおうちをスマートフォンで撮影している姿をよく見かけます。なかには、「祖母の家にあった丸いちゃぶ台や黒電話を思い出したと、家族に写真を送信する人もいます。



昭和のおうち

時折、お茶の間に上がってもらい、スタッフが記念撮影をすると、とても喜ばれます。

《小学生がワクワクする社会科見学》

小学3年生になると、歴史を学ぶきっかけとして「昔の道具とくらし」を学習します。その体験学習の場として昭和のおうちが活用されています。文化財サポーターが道具を紹介しながら、自らが小学生だった頃の体験を語ってくれます。

先生方からは、「子どもたちにとつて大変新鮮な話で、グイグイ引き込まれた」「子どもたちが昔の照明の明るさを体感し、学びを深められた」など、貴重な学びの場として評価を得ています。



学校見学での体験学習

六ツ門だより

令和5年(2023)は、大正12年(1923)9月1日に関東大震災が発生してから100年にあたります。この節目に、震災に関する資料を展示しました。

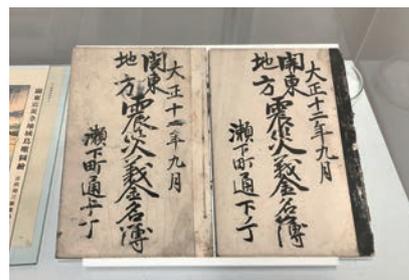
筆者は、関東大震災を本の中の遠い出来事のように感じていました。しかし、近年、毎年のように水害などの災害が身近に起こる中、100年の節目とのニュースを見て、久留米市にも関連資料があれば、災害への備えを呼び掛ける機会として紹介したいと思うに至りました。

収蔵資料のデータベースを「関東」「震災」のキーワードで検索すると、約20点が登録されていました。雑誌などのほかに、市内瀬下町の義捐金名簿、現在の市役所近くで開かれたチャリティーコンサートの記念写真、そして、久留米から東京に送られた、知人や自らの孫、生徒の無事を喜ぶ手紙もあることが分かりました。義捐金名簿には「9月8日納入」との日付が見られ、100年前の九州・久留米でも、発生から数日後には罹災者支援が呼び掛けられていたとうかがえます。

関東大震災に際して、行動を起こしていた人たちがいた。もしかしたら、私の先祖も震災を知って被災地を案じていたかもしれない。資料を確認しながら、関東大震災が遠い出来事とは思えなくなりました。

この年明けには、大規模な地震が起きました。いつでもどこでも、誰でも、被災者になる可能性があります。今一度、過去の災害を知り、日頃の備えを家族と確認しようと、筆者自身、思っています。

ミニテーマ展示「関東大震災100年—久留米市文化財収蔵資料から」の解説シートは、久留米市HPで「関東大震災100年」と検索、または下のQRコードを読み取るとご覧いただけます。



瀬下町 関東地方震災義金名簿

